

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	担当教員
臨床化学実習	2年次	必修	実習	2単位（90時間）	小丸 圭一

授 業 概 要

臨床化学Ⅰ・Ⅱで学習する検査項目のうち、主だったものについて実習し、反応原理や測定上の留意事項について修得し、得られた結果について臨床的意義を考察し、疾患との関連を学習する。  
また、採血から検査に至るまでの検体の取扱い方や取扱ミスによる結果への影響を修得し、検体の大切さを教える。さらに種々の精度管理法を用いてデータ管理を修得する。

到 達 目 標

- ・各測定項目の測定原理の説明ができる。
- ・各成分の正常値がわかる。
- ・測定項目と疾患との関係が理解できる。
- ・精度管理の意味を理解する。
- ・微量な検体を正確にピペッティングすることができる。
- ・酵素の性質を十分に理解する。
- ・測定項目により検体の種類、取扱いが異なることを理解する。

回	学 習 内 容	担当教員
1-4	実習講義、実習前試験	小丸 圭一
5-9	電解質測定 (Na、K、Cl など)	
10-14	血糖測定 (SMBG)	
15-19	血糖測定 (GOD-POD 法、HK-G6PDH 法) HbA1c 測定 (酵素法)	
20-24	脂質測定 中性脂肪 (LPL-GOD-POD) 総コレステロール (ChE-ChOD-POD 法)	
25-29	LDL コレステロール測定、HDL コレステロール測定	
30-34	総タンパク質測定 アルブミン測定 血清タンパク電気泳動	
35-39	非蛋白性窒素 (BUN、UA など)	
40-45	酵素 (AST、ALT、ALP、CHE など)	

学 習 方 法

本実習は各検査項目を測定することで、測定原理や生理的变化、さらに精度管理の概念を実習する。  
また、本実習は各項目の知識・技術を積み重ねて修得する必要があるため、事前説明に遅刻や実習を欠席した場合などは以降の出席を認めないことがある。なお、欠席の場合は事前に科目担当者に了承を得る必要があり、無断で欠席した場合は以降の出席を認めないことがある。

評 価 方 法

- ・実習評価は実習修了試験（60%）及びレポート（40%）により評価する。
- ・レポートはレポート評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。
- ・やむを得ない事由による欠席の場合は、補習実習を行う。

先 修 科 目

生物学、化学、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、検査機器学、検査管理学、臨床基礎検査学、臨床基礎検査学実習、基礎医学実習

教 科 書、参 考 書

〔教科書〕  
臨床検査実習書シリーズ 臨床化学検査学 実習書 医歯薬出版  
標準採血法ガイドライン 日本臨床検査標準協議会 (JCCLS)